

合計	70
----	----

高等学校 令和 8 年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

单位数： 2 单位

組～ 組

(組：

)

の目標：

【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現の工夫をしたり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】生涯に渡り芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活をする態度を養い豊かな情操を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性に理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現するために必要な技術知識を身につけるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら、よさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主體的・協同的に音楽の諸活動に取り組み、生涯に渡り音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	【知識及び技能】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、および音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・曲想と歌詞との関わりを理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ表現している。	２・３学期に実施する 授業内コンサート （グループの探究活動） のため、音楽室で可能な様々な音楽活動を行う。 【歌唱】 合唱にチャレンジし、声によるアンサンブルを楽しむ。 （教材）糸、何度でもジブリなどのピアノ伴奏つきやアカペラ合唱曲	○			旋律を中心に知覚し、その働き方を感じしながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対するその評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。		○	○		
	【思考力、判断力、表現力等】 ・音色や旋律等を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するか表現意図を持っている。	【器楽・創作】 クラシックギターでメロディーやベースも弾きアンサンブルを行う。 （教材）Stand by me		○	○	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽のよさを味わいながら演奏表現している。		○	○		
	【学びに向かう力、人間性等】 ・様々な音楽に関心を持ち主体的協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・主体的・協同的に歌唱・器楽創作活動に取り組もうとしている。	【器楽】 ピアノで音楽を楽しむ （教材） 喜びの歌 ディズニーメドレー		○		主体的・協力働的に歌唱・器楽・創作・鑑賞の学習活動に取り組んでいる。				○	
2 学 期	【知識及び技能】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、および音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・曲想と歌詞との関わりを理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ表現している。	【鑑賞・音楽史】 西洋音楽史の作品や作曲家について理解を深める （教材） 教科書・ファンタジア ファンタジア２０００ 【創作】 BGMを作ろう （教材） 教科書・カトカートン			○	旋律を中心に知覚し、その働き方を感じしながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対するその評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。		○	○		
	【思考力、判断力、表現力等】 ・音色や旋律等を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するか表現意図を持っている。	【器楽・歌唱等】 授業内コンサート①			○	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽のよさを味わいながら演奏表現している。		○	○		
3 学 期	【学びに向かう力、人間性等】 ・様々な音楽に関心を持ち主体的協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・主体的・協同的に歌唱・器楽活動に取り組もうとしている。	生涯に渡って音楽を楽しむ概念で各グループで練習時間や自身のレベルを気にしながら活動テーマを設定。選曲・練習・発表まで行う。 【器楽・歌唱等】 授業内コンサート② 生涯に渡って音楽を楽しむ概念で各グループで練習時間や自身のレベルを気にしながら活動テーマを設定。選曲・練習・発表まで行う。２回目は個人可。	○	○		主体的・協力働的に歌唱・器楽・創作・鑑賞の学習活動に取り組んでいる。				○	
										合 計	70

高等学校 令和8年度（1学年用）教科 芸術 科目 美術Ⅰ

单位数： 2 单位

(4.5.7.8組：尾関 (組：) (組：) (組：)

教科 芸術 の目標：

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 美術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的な美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成して創造的に発想し構想を練ったり価値意識を持って美術文化に対する感じ方を深めることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好する心情を育むと共に心豊かな生活や社会を想像していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 画	デ ザ イン	彫 刻							
1 学 期	単元 風景画 ○風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵具などの特性を生かして表す。 ○場所や風景のイメージをもとに、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ○風景から感じ取った良さや美しさなどを捉えて表す創作活動に主体的に取り組む。	○風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する。 ○主題をもとに形や色、構図などの構想を練る。 ○光や陰影、奥行き表現などを工夫し、絵の具の特性を理解して制作する。 ○完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。	○				○	○風景の中の空間、形や色彩などが感情にもたらす効果や造形的特徴などをもとに全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	○	○	○	10
	単元 色彩構成 ○形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵具などの特性を生かして表す。 ○場所や風景のイメージをもとに、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ○風景から感じ取った良さや美しさなどを捉えて表す創作活動に主体的に取り組む。	○色の三属性について理解する。 ○主題をもとに形や色、構図などの構想を練る。 ○テーマに基づいた効果的な色彩表現を考える。 ○完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。	○				○	○形や色彩、構図が人の感情にもたらす効果や造形的特徴をもとに全体のイメージで捉えることを理解している。	○	○	○	6
	単元 静物デッサン ○形や色彩、明暗、質感などの効果、全体のイメージを捉え表す。 ○モチーフの特徴や美しさなどをもとに、形や色彩、明暗、質感などの効果を考え構想を練ったり鑑賞したりする。 ○デッサンの基礎に主体的に取り組む。	○身近なものを描くことに関心をもち、モチーフを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどを大切に素描をする。 ○モチーフを観察し、形や色、質感表現や奥行き、構図などの構想を練る。 ○線の種類や重ね方などを工夫し、デッサン用具の特性を生かして創造する。	○				○	○形や色彩、明暗、質感などの効果、全体のイメージを捉えることを理解している。	○	○	○	4
2 学 期	単元 自然物（サザエ）の模刻 ○形や質感、量感などの造形の要素の働きを基に計画性を要する石粉粘土ならではの技法や特性を生かし創造的に表す。 ○自然物の形態をよく観察し細部表現をする。 ○完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。	○彫刻の基礎的表現である塑像と彫像の違いを理解する。 ○自然物の形態をよく観察し細部表現をする。 ○形だけでなく着色することで、自然な色の美しさや、その構成要素を感じ取る。 ○完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。					○	○形や色彩、質感などの性質や石粉粘土による造形の要素の働きを理解している。	○	○	○	10
	単元 塑像（フィギュア製作） ○形や質感、量感やバランス、動勢などの効果、全体のイメージを捉え、芯材や粘土、メディウムなどの材料の特質を捉えて表す。 ○表したい主題の形態をよく理解した上で構想を練ったり鑑賞したりする。 ○表情や動きを捉えて粘土で表す創造活動に主体的に取り組む。	○主題に応じた芯（骨組み）の材料や大きさについて理解する。 ○作品が自立できるバランスを考えて制作する。 ○彫刻刀や紙やすりで行う細部表現を覚える。 ○メディウムについて知り目的に応じ使い分ける。 ○完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。					○	○風景の中の空間、形や色彩などが感情にもたらす効果や造形的特徴などをもとに全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	○	○	○	10
3 学 期	単元 コラージュ絵画 ○具体と抽象の組み合わせ、構図や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え画材の特性を生かして表す。 ○想像や空想したイメージなどをもとに形態や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え構想を練ったり鑑賞したりする。 ○心の中の世界を表す創造活動に主体的に取り組む。	○想像したい世界をあらわすことに関心をもち、主題を生成する。 ○選択した絵画作品1枚からイメージした主題をもとに、形や色、構図などの構想を練る。 ○あらわしたいイメージをもとに、材料や表現方法を工夫して創作する。 ○完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取る。	○	○			○	○意図に応じて画材の特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し創造的に表している。	○	○	○	12

合 計
52

高等学校 令和 8 年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

单位数： 2 单位

使用教科書：（『美術2』38-光村 美Ⅱ-701）

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】アイデア、及び企画力を養い、プレゼンテーションする能力を培う。

【学びに向かう力、人間性等】自分自身で目標を設定し、教室内での仲間とともに制作を支えあう人間性を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
デザインとファインアートの両分野において、画材等の的確な使用法を理解し運用する能力を培う。	デザインとファインアートの両分野において必要なアイデア、及び企画力を養い、プレゼンテーションする能力を培う。	与えられた課題のなかで、自分自身の学びとなるように目標設定し、教室内での子作業を通じて仲間を気遣い、ともに制作を支えあう人間性を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数		
			絵 画	デ ザ イン	彫 刻								
1 学 期	単元 広告デザイン ○デザインとファインアートの違いを学ぶ。 ○教科書やデジタル媒体を通じて、デザインアートの特性を学ぶ。 ○広告デザインの特性を言語化することにより抽象化された知識として定着させる。	○教科書を通じてデザインとはなにのかイメージをつかむ。 ○デジタル媒体を使って、自分が良いと思うポスターを選び、その情報を整理する。 ○選んだポスターについて、整理された情報から、その目的を類推し、分析して言語化する。				○	○			○	○	○	6
	単元 学園祭ポスター ○学園祭ポスターに必要なデザインについて思考する。 ○学園祭ポスターに必要なデザイン案を立案する。 ○立案された学園祭ポスターを制作する。	○学園祭に必要なイメージを言語化する。 ○言語化されたイメージを色や図柄に置き換えて、アイデアを描く。 ○描かれたアイデアを取捨選択し、学園祭のポスターを下描きする。 ○下描きされたポスターを絵の具で仕上げる。		○	○					○	○	○	14
2 学 期	単元 立体制作の基礎 ○立体造形の基礎について素材から学ぶ。 ○立体造形の基礎について、目的から学ぶ。	○彫刻の基礎的表現である塑像と彫像の違いを理解する。 ○彫刻作品、プロダクトデザインと手工芸の目的の違いを理解する。				○	○			○	○	○	2
	単元 スプーンの制作 ○使いやすいスプーンについて思考し、起案する。 ○起案したスプーンを削りだす。 ○削りだしたスプーンを磨き仕上げる。	○与えられた木材から製作可能なスプーンを起案する。 ○電気鋸や彫刻刀の安全な使い方を学ぶ。 ○紙やすりで細部を整える。				○				○	○	○	18
3 学 期	単元 スクラッチ版画の制作 ○版画の種類を知り、その特性を理解する。 ○スクラッチ版画の制作手順を学び、特性を生かした原画を描く。 ○スクラッチ版画の原版を制作し、摺り上げる。	○教科書とデジタル媒体から、凹版、凸版、平版、孔版についての特性を学ぶ。 ○凹版としてのスクラッチ版画の手順を学び、その特性を生かした原画を描く。 ○ニードルを使って原画を制作し、摺り上げる。	○			○				○	○	○	12
												合 計	52

松が谷 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 1書道

教科 芸術 科目 書道Ⅰ 単位数 2 単位

対象学年組 第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者 藤井

使用教科書 （大修館書店 新編 書道Ⅰ）

教科 芸術 の目標 芸術の幅広い活動を活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるよう

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術よさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い

科目 書道Ⅰ の目標 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広い	書の良さや美しさを感じ、意図に基づき構想し	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわた

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 書的美をもとめて 【知識及び技能】 芸術科書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。 【思考力、判断力、表現力等】 いろいろな筆順で書いてみる事で字形と筆順の関係性に気付く。	・国語科書写から芸術科書道となる事で古典から学び自己の表現と鑑賞の幅を広げていくことを理解させる。 ・国語科の学習の振り返りとして文字の筆順確認をし、筆順と字形が密接に関連している事を理解させる。	【知識・技能】 国語科書写の目標と芸術科書道の目標の違いを理解できたか。 【思考・判断・表現】 正しい筆順で書くことの重要性に気づけたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 間違っ覚えていた筆順を正しく覚えなお	○	○	○	4
	B 楷書の基本点画 【知識及び技能】 筆のはたらきを理解して楷書の基本点画を正しく書けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 毛筆の特徴を理解して遅速緩急をつけて筆を運び、思い通りの線	・筆のはたらきについて理解させ、楷書の基本点画を正しく書けるようにする。姿勢、執筆法、構え方にも言及する。	【知識・技能】 筆のはたらきを理解しているか 【思考・判断・表現】 運筆しながら適切に筆圧や穂先の位置を変化させることができているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自在に筆を使いこなすことができるようになることで幅広い表現活動に主体的に取り組	○	○	○	4
	定期考査						
	C 楷書の学習・唐の四大家 【知識及び技能】 唐の四大家の歴史的位置づけについて理解する。楷書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や書風との関わり、中国の文字や書の伝統と文化について理解する。	・唐の四大家について理解させる。 ・楷書の古典の比較を通して多様な書美に気づかせ、書風についても理解させる。 ・教材 九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑・雁塔聖教序・顔氏家廟碑 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・唐の四大家について理解したか ・多様な書美に気づき書風の違いを感じ取れたか 【思考・判断・表現】 線質、字形、構成等の要素の違いが書風の違いにつながる事を理解し、それを表現する工夫をしているか 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	12
	C 楷書の学習・北魏の書 【知識及び技能】 北魏時代の楷書の古典について鑑賞し、既習の唐代の楷書と大きく違うことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 北魏時代の楷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の	・北魏時代の楷書の古典を通して多様な書美に気づかせ、書風についても理解させる。 ・教材 北魏の書 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 北魏時代の楷書の古典と唐代の楷書の古典の書風の違いを理解できたか 【思考・判断・表現】 北魏時代の楷書の古典の書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成について構想し工夫することができたか 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	4
2 学 期	行書の学習 ・行書の変遷を知り、その書体の特徴や表現の多様性について理解する。 ・中国の文字と書の伝統と文化について理解する。 ・王羲之、顔真卿について理解する。	・中学校国語科書写との接続を意識し、行書の特徴を理解させる。 ・行書の基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけさせる。 ・教材 蘭亭序 祭姪稿		○	○	○	14
	行書の学習 ・日本の行書 ・風信帖の時代、書かれた状況、内容について理解する。 ・三筆、三跡について理解する。 ・風信状の鑑賞と臨書を通して表現の特徴を理解し、表現技能を身につける。	・風信帖の時代、内容、書かれた状況について理解させる。 ・仮名筆の扱い方、空海の書には、王羲之や顔真卿の書の影響があることを理解させる。 ・三筆、三蹟の書について、それぞれの中で共通する特徴が時代的背景にも起因することに気付かせる。 ・範書や運筆動	・行書の変遷について理解し、行書の特徴と	○	○	○	12
3 学 期	仮名の書 ・仮名の成立と種類について理解する。 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、仮名の線質や書風と用筆・運筆とのかわりについて理解し、基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫する。 ・仮名の作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用についてかんがえ、書の良さや美しさを味わってとらえる。	・仮名の成立と種類について理解させる。 ・仮名筆の扱い方、仮名用半紙、料紙等について説明し理解させる。 ・仮名の線の書き方や連綿の書き方について、範書や運筆動画を用いて説明し理解させる。 ・ひらがなの字源からの変遷を知ること、ひらが	・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、	○	○	○	10
		・単体を書く時の呼吸と連綿を書く時の呼吸の違いに気付かせる。 ・連綿するひらがな単体について、同じ字や外形が同じものが続くことで行の流れがうまく出ないところに変体仮名を使うことで流れが美しく出ること気付かせる。 ・散らし書きの紙面構成	・仮名の古典の書風に即した用筆・運筆、字	○	○	○	10
							合計 70

松が谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 芸術 科目 書道Ⅱ

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 教育出版 書道Ⅱ

の目標： 芸術の幅広い活動を通して各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて理解する。	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に表現する。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたって書に親しむ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			漢仮	漢	仮							
1 学 期	篆書の学習 ①篆書の成立と変遷 ②石鼓文 ③召尊（金文） ④甲骨文	・篆書の成立と歴史的変遷について理解を深めさせる。プリント、ワークシート ・代表的な篆書の古典を鑑賞、臨書することで時代背景などに関する知的理解を図り、それぞれの古典の特徴を把握させ篆書の効果的な表現の技能を身につけさせる。				○	○	【知識・技能】甲骨文から小篆への文字の変遷について理解したか。 【思考・判断・表現】篆書の用筆法にのっとりそれぞれの古典の特徴を捉え臨書することができたか 【主体的に学習に取り組む態度】それぞれの	○	○	○	10
	篆書の学習 作品づくり	⑤篆書の作品づくり ・好みの古典を選び主体的に臨書作品を半切に2行の配置で作成する。				○	○	【主体的に学習に取り組む態度】自分の好みの古典を選び主体的に作品制作に取り組めたか	○	○	○	4
	隸書の学習 ①隸書の成立と変遷 ②乙瑛碑 ③曹全碑 ④居延漢簡 ⑤石門頌	・篆書から隸書への変遷について書写環境の変化、筆の改良にも触れて理解を深められるようにする。 ・楷書との相違点を考察し、特徴をとらえられるようにする。 ・直感的鑑賞、分析的鑑賞の両方を大切に				○	○	【知識・技能】篆書から隸書への変遷について理解したか。 【思考・判断・表現】八分隸、古隸、木簡、それぞれの特徴をとらえ波磔や波勢の用筆に注意して臨書することができたか 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	10
	隸書の学習 ⑥隸書の半切作品制作	・隸書の中での好みの古典を選び主体的に作品制作に取り組む。				○	○	【主体的に学習に取り組む態度】自分の好みの古典を選び主体的に作品制作に取り組むことができたか。	○	○	○	4
2 学 期	篆刻の学習 ①印の歴史について理解する。 ②姓名印2か制作 ③書作品への押印	生徒各自の書作品に押印するための姓名印の作成である事を理解させる。 ・印の章法（変化、空間の比、文字の粗密の対比、辺縁の軽重等）についても紹介してより良い作品制作への意欲を高める。 ・篆刻印制作の手順を理解する。				○	○	・印の歴史について理解できたか ・印の章法	○	○	○	18
	押印し完成した書作品を鑑賞し、講座全員の印影を印譜作品集としてまとめる。（和綴じ）	・効果的な作品への押印位置というものがあることを理解する。 ・押印することにより作品の格が上がることを感じ取れるように配慮する。 ・和綴じが日本の伝統的な製本技術である事を理解させる。				○	○	・効果的な作品への押印位置を見極められるようにする。	○	○	○	4
3 学 期	漢字かな交じりの書 ①紙面構成 ②古典から（漢字と仮名の調和） ③用具用材の工夫	・行書きと散らし書きの違いを理解する。 ・行間の取り方が音読した時の間に相当する事を理解する。 ・古典から学んだことを活かして仮名と漢字を調和させる必要があることを理解する。 ・用具用材が変わるだけで作品が				○	○	紙面構成の作品への効果について理解できたか	○	○	○	10
	漢字かな交じりの書の創作 ①撰文 ②草稿 ③試書と鑑賞・意見交換会 ④清書 ⑤完成作品鑑賞会	・著作権について理解を深め、他人が発表した詩文などを題材に選ぶ時は作者名や作品名等を明記するなどして著作権に配慮しなければならない事を理解する。 ・草稿は実際に書いてみることで次のアイディアが浮かびやすくなることを体感する。 ・ほかの生徒				○	○	・漢字かな交じりの書の創作作品として発表し	○	○	○	10 合計 70